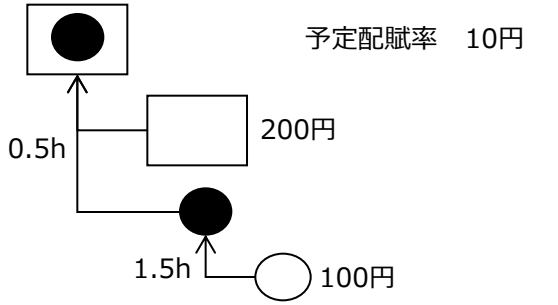
標準原価計算

計算の概要

ソートウェア Thoughtware

①標準原価を決める

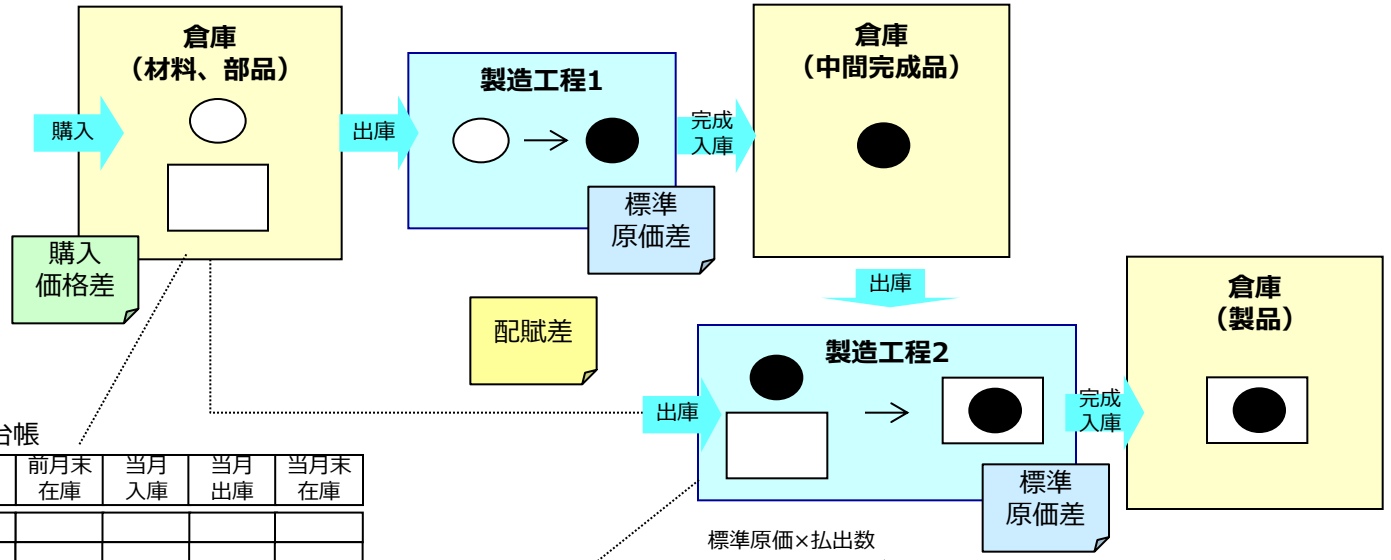


<標準原価>

	前工程	材料費	加工費	合計
●	115	200	5	320
●		100	15	115
合計		300	20	

②実績原価を計算する

・在庫評価は、標準原価で行います。
・直接材料費は、標準原価×実際払出数で計算します。
・加工費は、予定配賦率×実際工数で計算します。
　↓
・原価差異
　購入価格差異
　標準原価差異
　部門費差異（配賦差異）
が発生します。



在庫品台帳

	前月末在庫	当月入庫	当月出庫	当月末在庫
合計				

標準値で計算

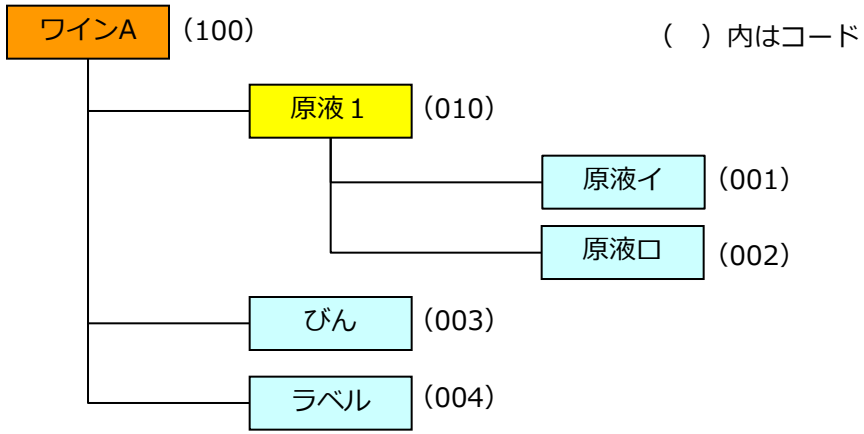
標準原価×払出数
予定配賦率×実際工数

原価計算表

	月初仕掛品	月末仕掛品	当月投入高	当月出来高	当月標準出来高	当月差額
直接材料費					200	
自製材料費					115	
加工費					5	
合計						

計算の手順（1/3）

1)ワインAの標準原価を算出します。



年期：XXXX年上期

品目コード	品名	前工程	材料費	労務費	設備費	その他経費	合計
100	ワインA	180	400	80	40		700
004	びん		200				200
003	ラベル		200				200
010	原液1		100	50	30		180
001	原液イ		50				50
002	原液ロ		50				50

原液1の材料費は、原液イ＋原液ロ　です。
ワインAの前工程は、原液1　です。
ワインAの材料費は、びん＋ラベル　です。

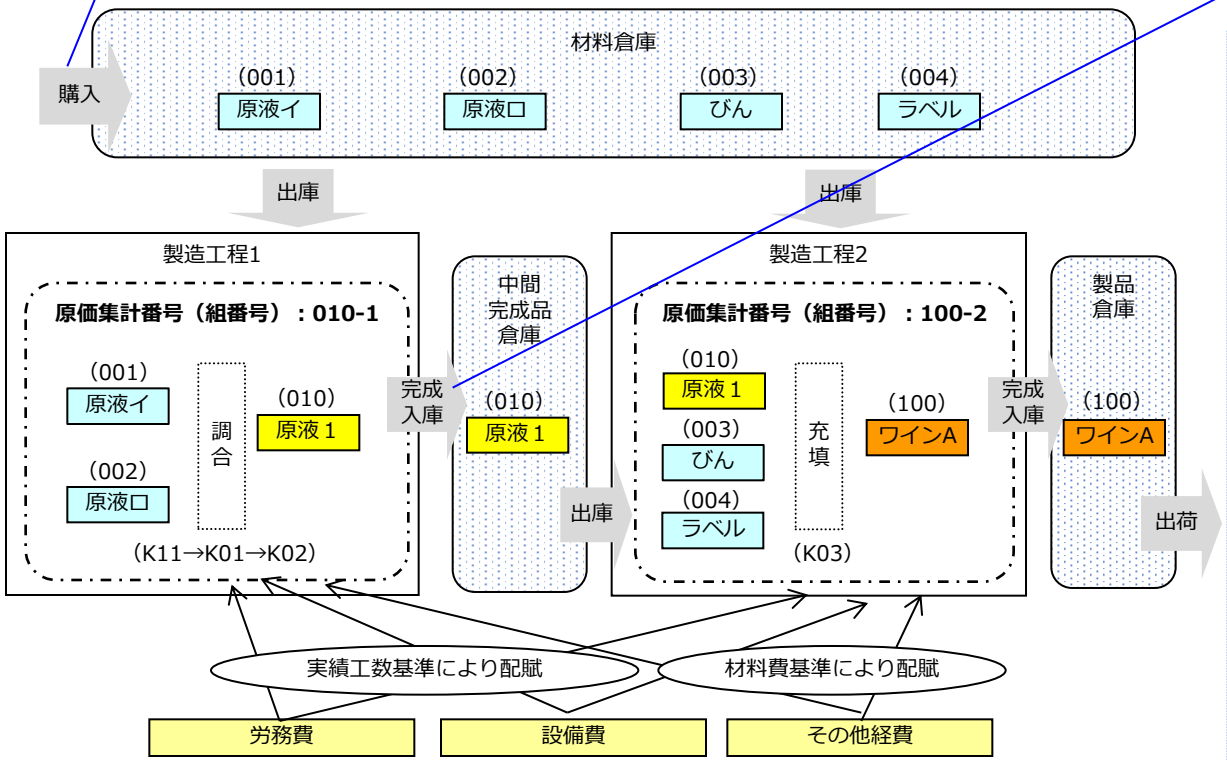
標準原価の算出は、
・製品毎に材料構成（原単位表、部品表、BOMと呼ばれています）を作成します。
・各材料の当該年期の標準単価を決めます。
（例：前期の最終仕入単価を今期の標準単価とする）
・各製造工程の予定賃率（時間単価）を決めます。
（予算の発生費用÷予算の操業度）
・各製造工程の当該年期の標準工数を決めます。（生産技術的な検討からなど）
・上記の情報を各製品の材料構成に従って積上計算
によって行います。

計算の手順（2/3）

2)次に、上記の標準原価（標準単価）を実績原価計算の各計算段階に組み込みます。

（イ）購入価格差異の計上

購入の段階で、実際購入価格と標準単価の差額を「購入価格差異」として計上します。
在庫品台帳は、標準単価×入庫数、標準単価×出庫数、標準単価×在庫数で作成します。
組番号への払出（材料費の投入計算）も払出数×標準単価で計算します。



（ロ）標準原価差異の計上

完成入庫（出来高計上）の段階で、当月出来高（製造原価）と標準原価の差額を「標準原価差異」として計上します。

中間完成品010の在庫品台帳は、
- ・標準原価×入庫数
- ・標準原価×出庫数
- ・標準原価×在庫数

で算出します。

組番号100-2への払出（自制材料費の投入計算）も
- ・払出数×標準原価

で計算します。

原価計算表の書式は下記のようになります。

締年月：XXXX年XX月　組番号：010-1　名称：原液1製造　　製造数：100

	月初仕掛品	月末仕掛品	当月投入高	当月出来高	標準出来高	標準原価差額
直接材料費			10,000	10,000	10,000	0
自製材料費						
労務費			5,000	5,000	5,000	0
設備費			3,000	3,000	3,000	0
その他経費						
合計			18,000	18,000	18,000	0
	①	②	③	④ ①＋②-③	⑤	⑥ ⑤-④

⑤は、原液1の標準原価×製造数で計上します。
⑥は、標準出来高と当月出来高の差額です（数量差異となります）

計算の手順（3/3）

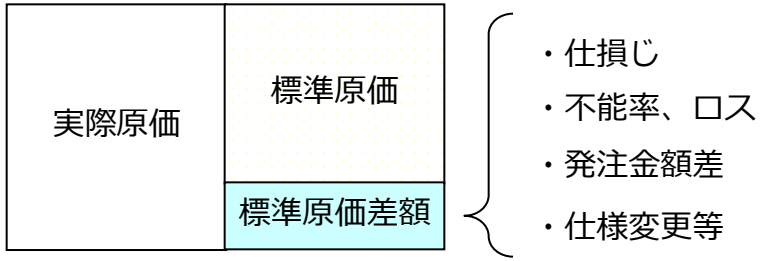
（ハ）部門費差異（配賦差異）の計上
労務費、設備費、その他経費の計算を予定値（予定賃率×実績工数　など）で行っている場合、
実際発生費用と各組番号に配賦された値の合計値に差額が発生します。

これで
（イ）購入価格差異
（ロ）標準原価差異
（ハ）部門費差異
の3つの原価差額が発生することになります。

原価差額の総額が製造原価全体の1%未満の場合は、
当該金額を当期の売上原価（期間費用）として処理します。
1%以上の場合は、期末に売上原価と棚卸資産に按分します。

購入価格差異

・購入材料、部品毎に設定した標準単価による納入額と実際納入額との差



部門費差異（配賦差異）

・実際に発生した費用と、予定賃率等×実績工数によって
製品（組番号、製造番号）に加工費として計上した金額との差

予定配賦と実際配賦

配賦計算には、

・予定配賦

・実際配賦

があります。

予定配賦の場合は、配賦差異（予算差異＋操業度差異）が発生します。

<予定配賦>

例）予算の段階で求めた時間単価（予定単価）× 実績工数　で配賦

	予算	実績
製造費	1,500	1,400

予算の製造費－実績の製造費

予算差異　100

	操業度	配賦額	操業度	配賦額
S1			8	240
S2			7	210
S3			10	300
S4			8	240
S5			7	210
合計	50	1,500	40	1,200

操業度の実績値×予定時間単価

操業度差異　-300

実績の配賦額－予算の配賦額

予定時間単価　30

予算の製造費÷予算の操業度

配賦差異　-200

予算差異＋操業度差異

<実際配賦>

例）毎月の費用実績、実績工数から求めた時間単価（実際単価）×実績工数で配賦

	実績
製造費	1,400

	操業度	配賦額
S1	8	280
S2	7	245
S3	10	350
S4	8	280
S5	7	245
合計	40	1,400

実際時間単価　35

実績の製造費÷実績の操業度

原価差額調整

<B/S（資産）>

流動資産	現金・預金
	売掛金
	製品
	購入半製品
	自製半製品
	仕掛品
	原価差額調整
	その他
固定資産	有形固定資産
	減価償却累計額
	その他

<P/L>

売上高	
売上原価	
原価差額	購入価格差額
	標準原価差額
	部門費差額
売上総利益	
原価外費用	販売費
	一般管理費
	技術研究費
	その他
営業利益	

期末に当期発生原価差額を棚卸資産と売上原価に按分する
（下記の計算式による原価差額調整額を原価差額勘定から原価差額調整勘定に振替）

$$\text{購入価格差額} \times \frac{\text{購入半製品}}{\text{材料消費高}+\text{購入半製品}} \quad \text{---①}$$

$$\text{原価差額調整} = (\text{標準原価差額}+\text{部門費差額}+①) \times \frac{\text{製品}+\text{自製半製品}+\text{仕掛品}}{\text{売上原価}+\text{製品}+\text{自製半製品}+\text{仕掛品}}$$

【本件に関するお問い合わせは下記まで】

ソートウェア株式会社
〒464-0075　名古屋市千種区内山三丁目18番10号　千種ステーションビル802号室
Tel：052-439-6758　Fax：052-439-6759